



## 最近の個人情報集積事情

# ～電子私書箱の動き～



2008.2.5 安田 浩 All rights reserved

平成20年 2月 5日  
東京電機大学 未来科学部

教授 CISSP 安田 浩

[yasuda@mpeg.im.dendai.ac.jp](mailto:yasuda@mpeg.im.dendai.ac.jp)  
[www.mpeg.im.dendai.ac.jp](http://www.mpeg.im.dendai.ac.jp)

# 概要

画像ビッグバンは必然

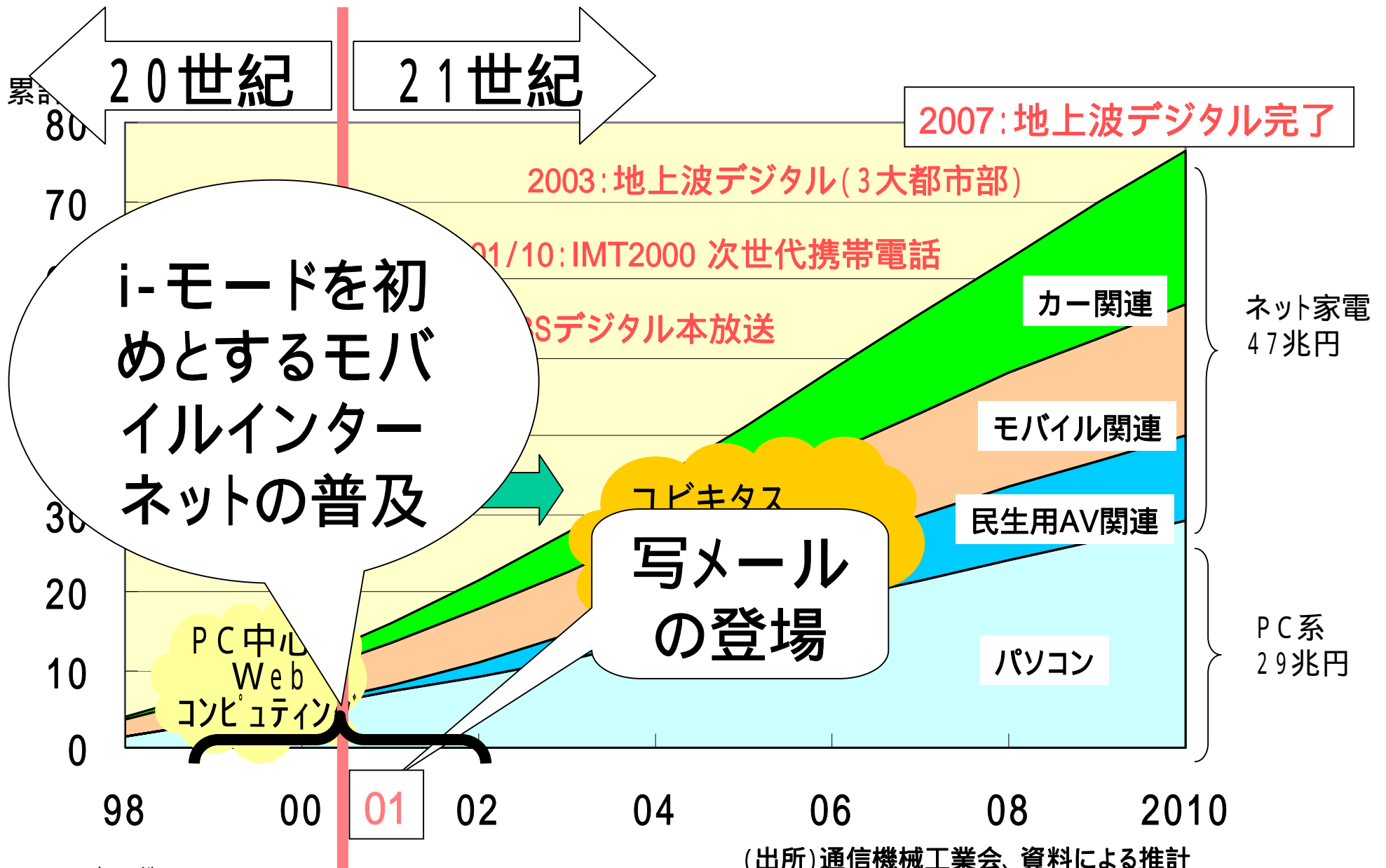
電子私書箱

情報分析の重要性

まとめ

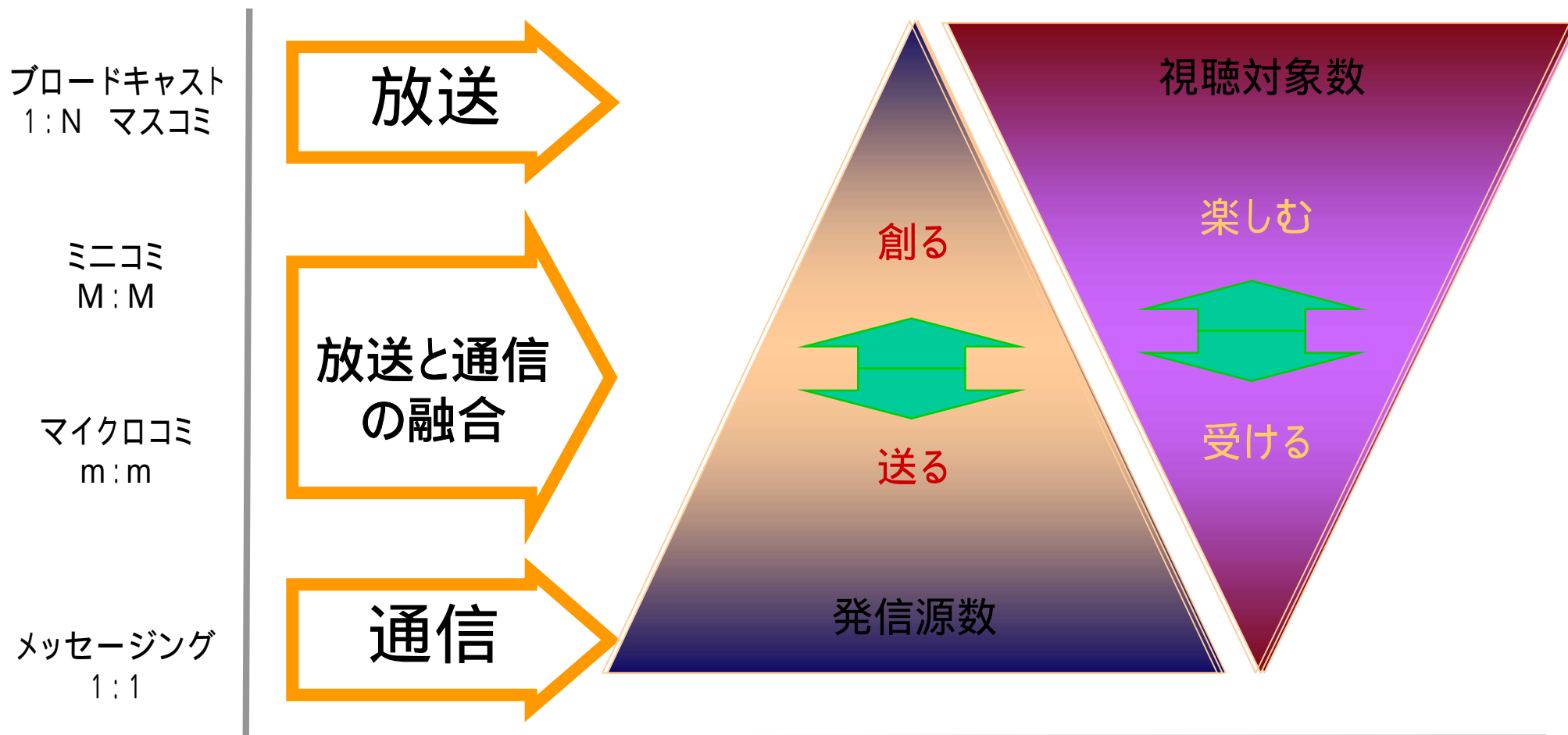
# 画像ビッグバンは必然

# 三位一体によるブロードバンド・ユビキタスインフラの完成

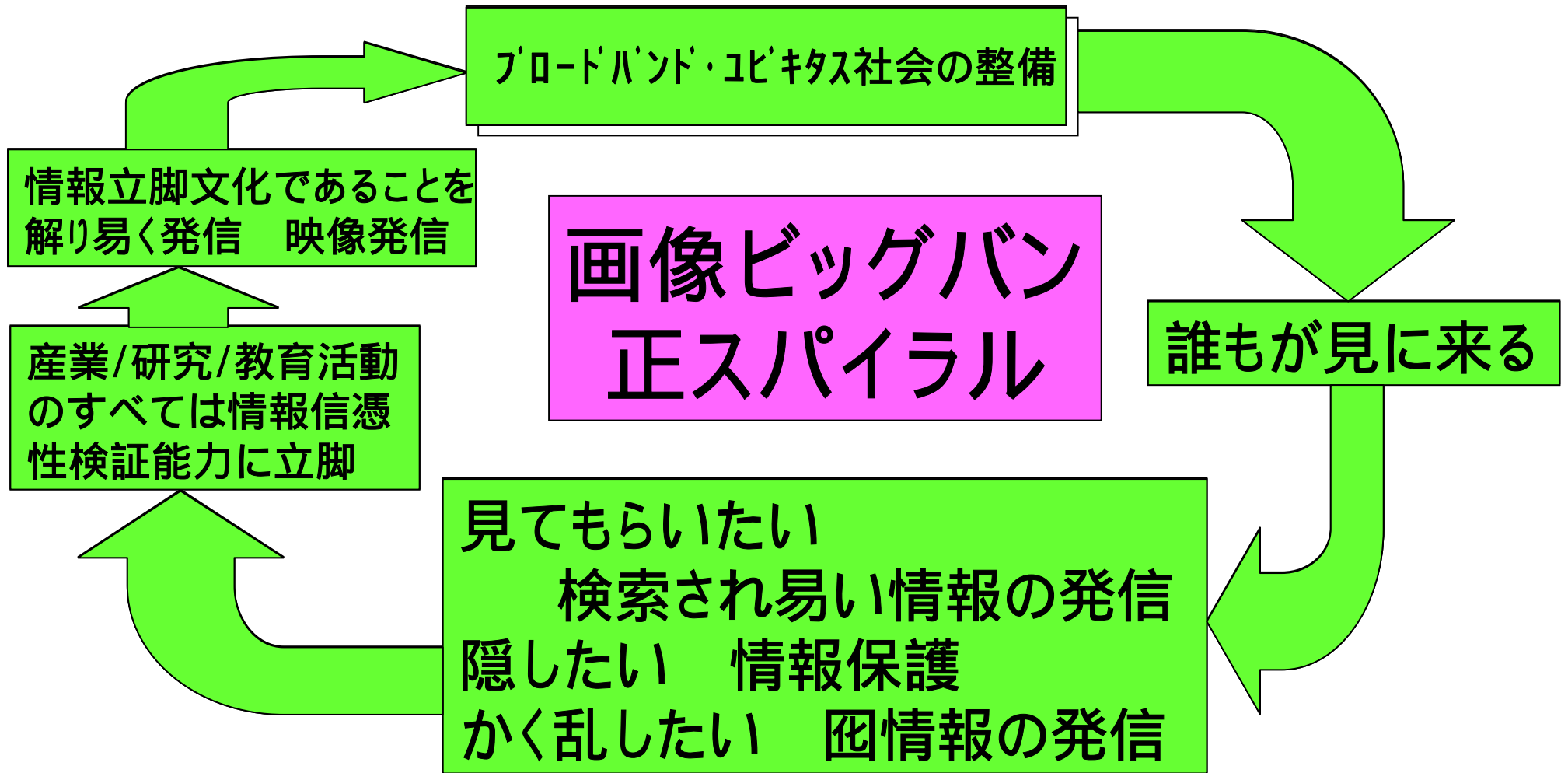


# 画像ビッグバンを生み出す環境

## ～ 誰でも放送ができます ～



# 画像ビッグバンは必然！



# カンブリア紀「生命ビッグバン」に学ぶ現代「画像ビッグバン」への対処法(1)

参考文献： 「眼の誕生」 アンドリュー・パーカー著 渡辺政隆/今西康子訳 草思社 2006年

項目	カンブリア紀「生命ビッグバン」	21世紀「画像ビッグバン」	
大爆発の定義	体色の多彩化 体殻の発生と多様化 数量の増加	五感の導入か？ テキストのみ 音、絵、香、触、味 の付加 量の増大 数のみならず量も	
対比事項	対象	動物種	地域文化
	環境変化	霧が晴れて光が溢れる	ブロードバンド・ユビキタス環境が出来、遠隔地の情報を誰でも容易に収集可能となる
	出現した物	眼	五感検索エンジン(遠隔眼)
	淘汰圧力	受動的捕食 能動的捕食	受動的情報収集 能動的情報収集

# カンブリア紀「生命ビッグバン」に学ぶ現代「画像ビッグバン」への対処法(2)

参考文献: 「眼の誕生」 アンドリュー・パーカー著 渡辺政隆/今西康子訳 草思社 2006年

項目		カンブリア紀「生命ビッグバン」	21世紀「画像ビッグバン」
歴 史	地球誕生	46億年前	
	誕生	39億年前 生命誕生	3百万年前 アウストラロピテクス誕生
	形を成す	12億年前 単細胞生物誕生	3万年前 ホモサピエンス誕生
	発展始まる	10億年前 多細胞動物誕生	5千年前 4大文明誕生
	大爆発開始	5億4300万年前 霧が晴れ、すべてが見える 眼の誕生	1980年代 ブロードバンド・ユビキタス環境ができた 遠隔眼(五感検索エンジン)の誕生
	大爆発終了	5百万年 初期三葉虫一人勝	50年? 2030年には淘汰終了
対 応 策	守る	硬組織と擬態	情報保護と囷情報発信
	考える	探知知能の向上	情報信憑性検証能力の向上
	訴える	目立つ体形・体色の獲得	解易い情報発信力(動画発信)の向上

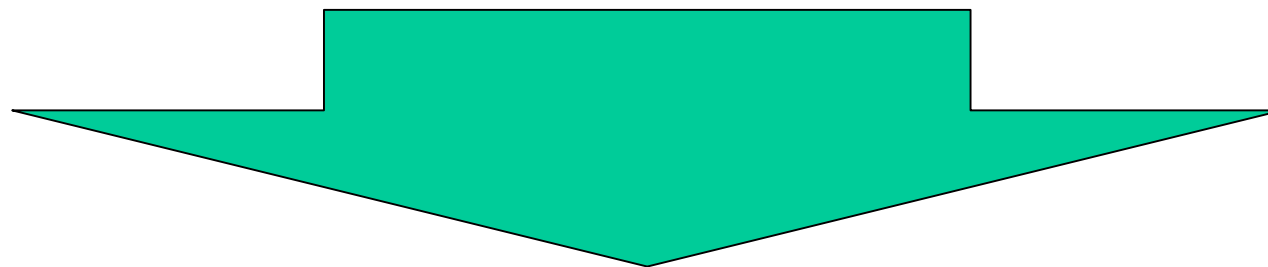


# 国・地域の知財力を強化するには 情報の価値化・知識化・映像を用いた発信が鍵

## (0) 情報主体で考える人材育成が必要

- (1) 国内での情報の集積化と迅速なアクセスが必要
- (2) グローバルに最新の情報への迅速なアクセスが必要
- (3) 収集情報の再利用のための巨大アーカイブが必要
- (4) 知識化・理解促進のためにすべてのデバイス解消が必要
- (5) 情報の日本文化に整合した効率的理解促進が必要
- (6) 個人型検索エンジンの開発とそのためのアーカイブ必要**
- (7) グローバルな理解を得るための情報発信が必要
- (8) 全体に対し情報の安心安全環境の構築が必要
- (9) 上記を支えるためのNWインフラ・BCI技術が必要

情報を活用するには



プライバシーデータベース  
が鍵

# 電子私書箱サービス成立に向けた諸条件

平成20年1月29日

# 電子私書箱サービスの要件

## ◆利用者からみた電子私書箱の望ましい要件は何か

1. 電子私書箱の利用は本人が選択できることが必要である。
2. 利用者の情報を安全に管理するため、法令やガイドラインの遵守が求められる。  
国内法で対応が可能であること。
3. 継続的に個人の情報を扱うため事業の継続性が求められる。

仮に電子私書箱サービスを終了する際には、取り扱ったデータを別の電子私書箱に移行できるようにする必要がある。

# 電子私書箱のメリット

◆ 電子私書箱の利用は、国民、医療機関、保険者、民間企業等に、メリットをもたらすと期待。

## ◆ 国民のメリット

- 個別の情報保有機関で持つ情報を容易に入手・閲覧
- 国民側で自己の情報を一元的に統合・管理
- 情報を適切に活用し、第三者からのアドバイス等の各種サービスの提供を受けることが可能

## ◆ 医療機関のメリット

- 健診結果の通知手段
- 個人への情報開示の簡便化・コストの削減

## ◆ 保険者のメリット

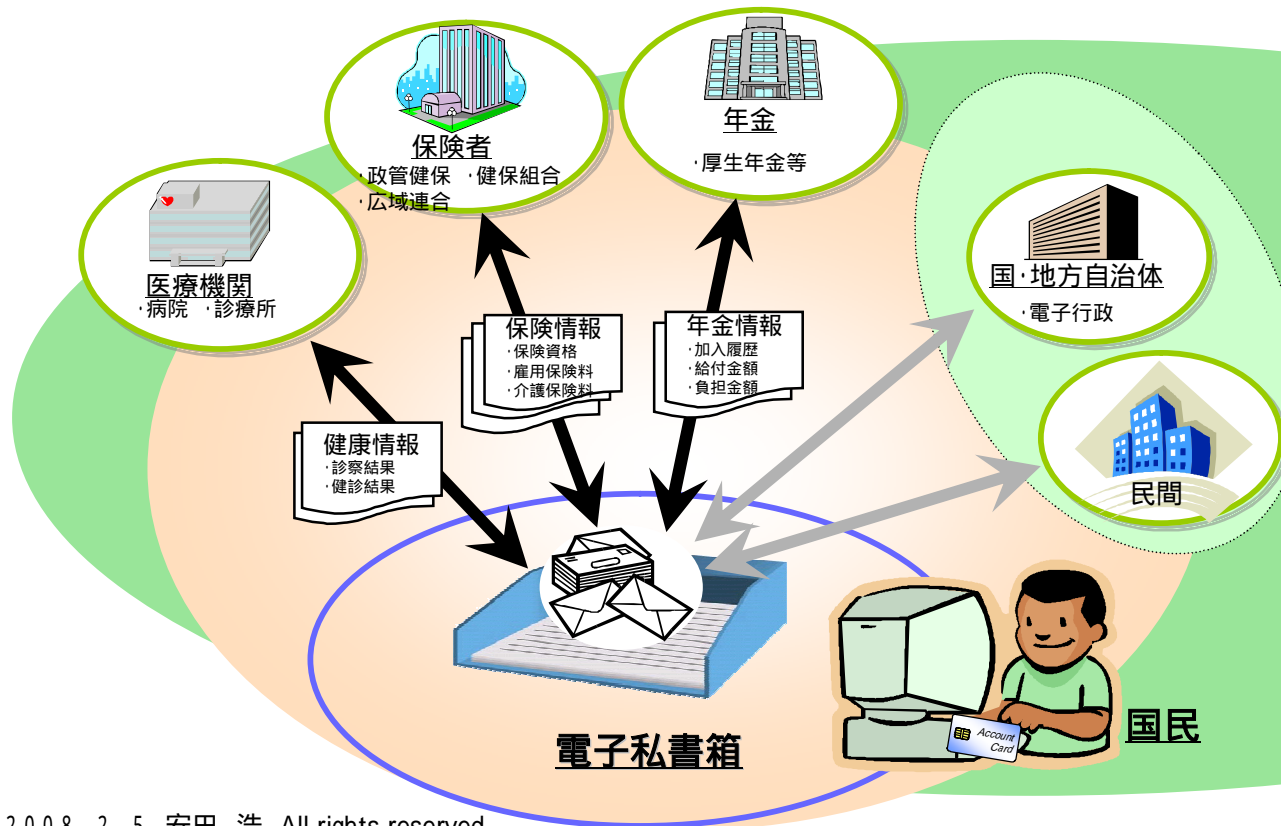
- 標準報酬決定通知の着実な実施、医療費通知の簡便化
- 個人への情報開示の簡便化・コストの削減

## ◆ 民間企業のメリット

- 情報を利用した新たなサービスへの参入
- 各種明細表の通知コストの削減

## ◆ 公的機関のメリット

- 国民への通知コストの削減(例 ねんきん定期便などとの連携)
- 事務手続きの簡素化



# 電子私書箱サービスのビジネスモデル

- ◆電子私書箱サービスを運営していくためにどのようなビジネスモデルが考えられるか。
- ◆電子私書箱の導入により費用の削減が期待される分野はどのようなものが考えられるか。

## ■電子私書箱が提供する情報の一覧表示、活用サービス等の付加価値(メリット)をどのようにビジネスに結びつけるか。

- ▶付加価値自体への対価を得る。
  - 電子私書箱サービス(ポータル、情報蓄積、活用サービス)の利用に対する対価。
- ▶他のサービスへの呼び水に使う。
  - 電子私書箱で扱う情報に連動した広告。
- ▶民間企業とのアライアンスによる集客数の増加。

## ■電子私書箱で費用削減が期待される分野

- ▶公的機関による通知
  - 仮に年金定期便を電子私書箱サービスにより実施する場合、年金定期便の郵送費が削減できる。
- ▶民間企業における郵送等が必要な通知

電子私書箱サービスが成立するために、公的セクタの役割も含め検討が必要。

# 電子私書箱サービスの立ち上げのための環境整備

◆ 民間サービスとして成立するためには、どのような条件が必要となるか。サービスの立ち上げを促すために公的セクタ等には、どのような取り組みが期待されるか。

## ■ 民間サービス開始にあたっての課題

- 機微な情報を扱う場合、厳重な管理のための設備投資、運用経費が負担になる可能性がある。
  - ・ 機微な情報を扱うことによるリスク
  - ・ 経年変化を一覧する健康情報(特定健診結果など)は、長期間保管することが望まれる。
- 電子私書箱の付加価値を高めるため、情報の種類を増やす必要がある。
  - ・ 情報保有機関が、安心して情報を提供することができる環境が必要。
- 複数の情報保有機関との調整が必要がある。

## ■ 想定される公的セクタの取り組み例

公的セクタがサービス立ち上げの土台として環境を整備することができるのではないか。

- 公的セクタの機微な情報を安全に利用者に提供するための環境整備
- 認証基盤の整備
- 実証実験の実施  
等





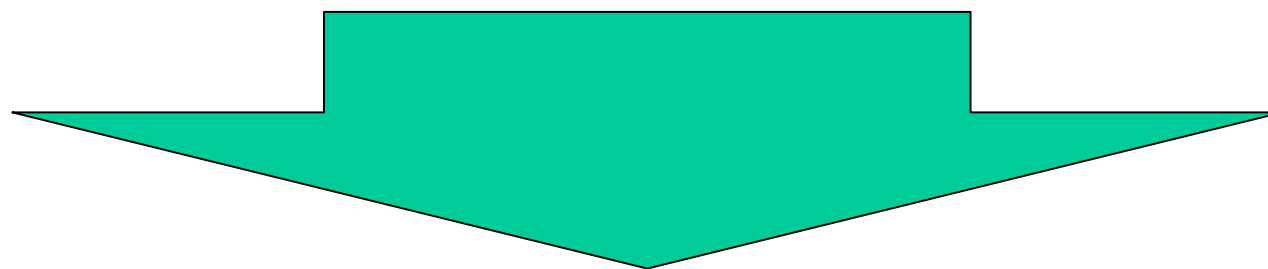
ま と め

# 国・地域の知財力を強化するには 情報の価値化・知識化・映像を用いた発信が鍵

## (0) 情報主体で考える人材育成が必要

- (1) 国内での情報の集積化と迅速なアクセスが必要
- (2) グローバルに最新の情報への迅速なアクセスが必要
- (3) 収集情報の再利用のための巨大アーカイブが必要
- (4) 知識化・理解促進のためにすべてのデバイス解消が必要
- (5) 情報の日本文化に整合した効率的理解促進が必要
- (6) 個人型検索エンジンの開発とそのためのアーカイブ必要**
- (7) グローバルな理解を得るための情報発信が必要
- (8) 全体に対し情報の安心安全環境の構築が必要
- (9) 上記を支えるためのNWインフラ・BCI技術が必要

情報を活用するには



プライバシーデータベース  
が鍵

# プライバシーデータベースとは

